

§ 目次 §

§ 目次	1
§ 審査総評	2
§ 審査講評	
【産業工芸品部門】	
経済産業大臣賞、経済産業省製造産業局長賞	4
日本経済新聞社賞、家庭画報賞	4
(公財)日本デザイン振興会賞、(一財)生活用品振興センター理事長賞	5
(特非)食空間コーディネーター協会賞、日本漆器協同組合連合会理事長賞	5
審査員特別賞、奨励賞	6
【美術工芸品部門】	
農林水産大臣賞、林野庁長官賞	8
(株)商工組合中央金庫社長賞、家庭画報賞	8
(一財)伝統的工芸品産業振興協会賞、(一社)日本百貨店協会会長賞	9
(一社)日本漆工協会理事長賞、全国漆業連合会会長賞	9
審査員特別賞、奨励賞	10
【特別テーマ部門】	
日本漆器協同組合連合会理事長賞	12
§ 審査関係	13
1. 開催日時	14
2. 会場	14
3. 出品組合	14
4. 出品組合	14
5. 審査方法と賞の決定手順	14
§ 参考資料	19
歴代大賞受賞一覧 (個人賞)	20
歴代受賞一覧 (団体賞)	24

§ 審査総評 §

60 回展記念の年に、日本全国の漆器生産者から寄せられた作品はいずれも心のこもった、魂あふれる力作であった。漆器業界の未来がなかなか見出せない中で、明るく、確かな方向性を示す作品が多く見受けられたことは、実に嬉しいことである。

審査員の顔ぶれは多岐の分野から選ばれ、それぞれの感性で心を打つ作品に一票を投じていく。作者の名前も産地も伏せられ、自らの手持ち資料に記入していくため、他の審査員の影響を受けることはない。無言の中で投票が進み、一覧表が公開されてからは、二人の部門長の司会のもと、良い点を語り合いながら各賞を決定していく。

こうした多角的な議論を経て、個人賞と団体賞が決定していく。幾多の天災の中で困難な状況にある輪島が最高賞を獲得したことは、漆器業界の行末を考えるうえで心豊かになる出来事であった。

現在、漆器業界を支える作り手の高齢化が進み、若い世代の担い手が少なくなっている。次世代への技の伝承、そして国内外マーケットへの多角的な展開は急務であり、この展覧会がきっかけとなって、さまざまな形で具体的な発展が生まれることを期待している。



第 60 回全国漆器展
審査員長 三田村 有純 記

産業工芸品部門
受賞作品



経済産業大臣賞

[花の椀]

(株)土直漆器 (越前漆器)

花の椀。花器でありながら、漆器ならではの新しい趣が感じられます。漆は長く水に浸すと浸透するため、中に小さな器を収めて用いることを想定。端正な塗りはしっかりと美しく、空間をやわらかく引き立てます。長くそばに置きたくなる逸品です。



経済産業省製造産業局長賞

[碧螺鈿 7寸変形皿]

小林 広幸 (木曾漆器)

お皿の上面に無数の星空が広がります。水面に映った星空をイメージした作品。お皿が宇宙とつながっているようで、創造力をかき立てられます。青は時間が経つとより鮮やかになるため、年月を重ねたあとの姿を想像するのも楽しみです。価格がリーズナブルな点も魅力です。



日本経済新聞社賞

[弁当箱 布付き 朱]

氏家漆器(株) (高岡漆器)

中板は取り皿としても使え、皆でお弁当を囲む姿を思い描くと心弾む気持ちになります。組み合わせ方で多様に使えるデザインは遊び心にあふれ、料理をどう魅せるかを考えるのも楽しみです。現代的な暮らしに寄り添いながら、広げる場面ごとに新しい魅力を感じさせる。モダンで心豊かな作品です。



家庭画報賞

[一閑張 八角 5個組小鉢真塗り 黒・赤]

宮原 正岳 (木曾漆器)

5つの小鉢がコンパクトに収められ、日本古来の技術を用いながらもモダンで美しいデザインに仕上がっています。木組みでありながら薄作りを実現するため、表面に和紙を重ねて強度を持たせる工夫が凝らされています。随所に息づく伝統の技が仕上がりを際立たせる。塗りの中に和紙の質感が残る点もまた大きな魅力です。



公益財団法人日本デザイン振興会賞

[箸置 梅 5 個組]

大関 功 (川連漆器)

愛らしいデザインで、使い方の想像が広がり審査員の会話も弾みました。箸置きとしてはもちろん、小皿のように小さな食材を盛るなど、工夫次第で多彩に楽しめそうです。組み合わせで梅の形になる工夫など、細部まで考え抜かれた造りが印象的。デザインとしても巧みで、使い手の創造力を刺激します。



一般財団法人生活用品振興センター理事長賞

[面取漆器「十」「十三」溜]

岩上 平蔵 (越前漆器)

面取加工という伝統技法により、リズムカルな縁が漆に奥行きある表情を与え、漆ならではの魅力を感じさせます。手ざわりもしっとり心地よく、手に自然と馴染みます。飲み物を楽しむ用途だけでなく、想像次第でさまざまな使い方が広がる。日々に寄り添う器です。



NPO 法人食空間コーディネート協会賞

[ボール&ソーサー さつき 黒スリ・赤スリ・スリ]

(株)龍門堂 (木曾漆器)

蓋として使うとまた異なる表情を見せ、何通りにも使える点が楽しい作品です。拭き漆仕上げで日常的に気負わず使えるのも魅力。お皿としてもお椀としても、カフェオレやデザートを楽しんだり、和洋を問わず活躍します。丁寧な作りでありながら手頃な価格。手ざわりも心地よく、日々に寄り添い長く愛用したくなる逸品です。



日本漆器協同組合連合会理事長賞

[三段オードブル重 響樹]

(有)中出漆器店 (山中漆器)

見た目がとても美しいですね。重箱の機能を活かしつつ、仕切りを設けて前菜やオードブルを美しく盛り付けられる工夫が施された三段重です。仕切りを外せばお寿司を入れるなど多様に使い、用途の広がりを感じます。審査員からは小物を収める箱としても良さそうとの声もあり。暮らしの中でさまざまに活躍する器です。



審査員特別賞

[後藤象谷塗 フリーカップペア]

(株)黒松 (香川漆器)

伝統的な技法を用いながら、木目と幾何図形を取り入れたモダンなデザインに仕上げられたフリーカップです。現代の暮らしの中にも調和し、日常使いとしてはもちろん、贈り物としても喜ばれることでしょう。



奨励賞

[丸 盛皿(黒マット・赤黒塗分)]

(株)柴田漆器店 (高岡漆器)

盛り皿のセットです。彫刻塗で、漆ならではの特徴を活かした表現が魅力。黒マットはあえて艶を消すことで食材を引き立て、赤黒の塗分けは楽しい席にふさわしい華やぎを添えます。盛り皿としてはもちろん飾り皿としても楽しめ、和洋問わず料理を美しく映えさせる器です。



奨励賞

[盛器 四角ランダム彫 長角・角]

上原 千紘 (高岡漆器)

黒い面から滲むように浮かぶランダムな直方体模様が独特の意匠を生み、漆ならではの豊かな味わいが盛器の魅力を際立たせています。長方形や四角形の盛器は、料理を盛り付けるたびに異なる姿を見せる。どのような料理を映えさせるか想像を膨らませてくれます。



奨励賞

[四季重 長広形 末]

松本石太郎工房 (輪島塗)

お城の石垣を思わせる末広りの造形は、緊張感と安定感を兼ね備え、優雅な佇まいを見せています。国際的な視点から見ても、日本らしい造形として広く受け入れられると感じます。所有する喜びを味わえる。存在感のある逸品です。

美術工芸品部門
受賞作品



農林水産大臣賞

[大理の夢]

高橋 貞一（川連漆器）

たっぷりとした厚みのある器に、大理石を思わせる模様が配されている。有機的な模様は一見して技法の特定が難しい。柔らかな形態とこの意匠が響きあい、審査員の心を掴んだ作品である。水面に漆と溶剤を垂らし模様を写し取る墨流し技法は、偶然性が伴いやすいが、粗密のバランスもよく、深い研究の努力が感じられる。



林野庁長官賞

[大盃 菊詰沈金]

千舟堂（輪島塗）

大盃の中央、空色から黒へのグラデーションの上に沈金を施し、繊細で気品の高い雰囲気をつ纏った秀作である。作者がイメージした能登の空と海を色漆で簡潔に表現し、漆文化が末永く続くよう願いを菊の花に込めている。沈金の線の彫りの丁寧さから、想いの強さが感じられる。



株式会社商工組合中央金庫社長賞

[塗分け三段重箱]

小坂 進（木曾漆器）

漆といえば黒漆と朱漆。それを市松模様に塗り分けた三段重である。歪みのない正確な研ぎの技術と平滑さが心地良く、内側の朱の塗り立ても優れており、技術力の高さが際立つ。少し高め脚が作品のシャープな見え方を演出しており、気の利いた優作である。



家庭画報賞

[34.0 盛器 鯉]

酒井漆器店（江戸漆器）

枋の木目から水の流れをイメージし、水中で遊ぶ鯉を描いた作品である。この器を使い続けることで生じる経年変化、透漆の透け方や艶の上がり方により、器の中で泳ぐ鯉の見え方が変わることも愛でる楽しみになるだろう。遊び心のある作品である。欲を言えば、金の縁の色味がやや強いため、抑えることで作品全体がよりまとまると感じる。



一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞
 [小箱 末広形 洗朱呂色 牡丹に蝶沈金]
 輪島屋善仁 (輪島塗)

ふっくらと柔らかく膨らんだ形態で、つい手に取りたくなる箱である。鮮やかな朱漆と卓越した沈金技法により牡丹と蝶を描き、すっきりとまとめ上げている。蓋を開けると黒漆の塗り立ても美しく、漆の魅力が醸し出される優作である。



一般社団法人日本百貨店協会会長賞
 [雪月花蒔絵雪吹]
 (株)うるしアートはりや (山中漆器)

吹雪の形状を表した棗である。冬から春へと季節が移り変わる時間を螺鈿と蒔絵で表現している。素材の色味を巧みに吟味して用いており、冬の寒さを表す銀色や貝の色、暖かい春を感じさせる金色など、素材選びへの気遣いが光る優作である。



全国漆業連合会会長賞
 [三段重(分銅形) 源氏香(松風・初音)蒔絵]
 加藤漆器店 (輪島塗)

物の重さを計測する際に用いる「分銅」をモチーフに形を考えた三段重である。意匠は香道における源氏香から発想を展開している。お重を開くと、それぞれに松竹梅がワンポイントで配されており、気の利いた趣向が使う人を幸せにしてくれる。卓越した蒔絵の技術力と内側の朱塗りの上手さは言うまでもない。



一般社団法人日本漆工協会理事長賞
 [「矢羽」紋盛木 赤・黒]
 須藤 賢一 (津軽塗)

栓材の無垢で作られた盛器である。円形の市松模様は微かに凹凸をつけて描かれ、それぞれ朱溜と黒漆の塗り立で仕上げられている。表面は高い塗りの技術で整えられているのに対し、裏面には鑿の跡が大胆に刻まれており、その表現のギャップにハッと驚かされる。作者のセンスが光る作品である。



審査員特別賞

[半月膳(夜空いっぱい)]

山本 勝 (越前漆器)

夜空に打ち上がる花火を半月膳の形に合わせて巧みに配している。一瞬の輝きを漆で表現することは難しいが、沈金の彫り方や沈める金属粉の種類、顔料を変えることで、火薬が弾ける瞬間から消えていくまでを的確に表現できている。子供から大人まで誰もが観たことのある夏の思い出を蘇らせる作品である。



奨励賞

[ホリデイズ・ディッシュ オリーブとクローバー]

(株)川口屋漆器店 (香川漆器)

枋材を用いた大ぶりの27センチのリムプレートである。オリーブとクローバーは彫漆と存清の技法により可愛らしく描かれ、パスタやシチューなどにも使えそうなデザインとなっている。形やデザイン、絵柄は目を引いたが、彫漆や存清といった伝統技法と、やや斑のある木地溜塗りとこの技術的なバランスがもう少し考慮されていれば、さらに票が集まったと考えられる。



奨励賞

[薄平椀 "不二の彩り"]

橋本 一弘 (越前漆器)

金属製品のように見える点が目を引く。素地は椀で、内外全面に銀粉を蒔いた蒔絵技法による平椀である。蓋表には漆で微かに高上げた富士山が描かれ、1組の中で色を変えることで1日の空の色を表現している。繊細な色調で巧みに空の色を表現しているが、富士山がやや分かりにくく、もう少し主張する力強さがあれば票が集まったと考えられる。



奨励賞

[花活 キンマ、存清 オリーブ]

文新堂漆器工業(有) (香川漆器)

円柱を横にした形状で、銅製の落としが上部についた花器である。鏡面に磨かれた面に、キンマ・存清・沈金の技法で可愛いオリーブが描かれ、丁寧に仕上げられている。重みのある花器で安定感があり、実用性も備えている。もう少しどこかに印象に残る要素があれば、さらに票が集まったと考えられる。

特別テーマ部門
受賞作品



日本漆器協同組合連合会理事長賞
[銀河酒器セット]
(株)能作（金沢漆器）

乾漆造形による胎の形はいずれも作者の感性が溢れており、見事である。特に注器は、サザエの形の突起の一方をお酒の注ぎ口とし、残りを安定させる足の役割としている。黒漆の艶やかな輝きの中で、内側にはモチーフとしたサザエの貝殻を薄くした貝片を貼り、お酒の中で煌めく表情が楽しい。



日本漆器協同組合連合会理事長賞
[陶漆 酒器セット 溜漆塗・朱漆塗]
(株)土直漆器（越前漆器）

越前焼の究極の薄造りによる手付きの銚子とぐい呑みの造形は見事である。陶器でありながら手に取ると軽く、口当たりが良いのは研究を重ねた成果である。艶やかな漆が塗られることで、凛とした佇まいが美しい。内側にはお茶の急須としても使えるしつらいがあり、さまざまな場面で活躍する漆器である。



日本漆器協同組合連合会理事長賞
[ぐいのみ 蟹とふぐ蒔絵]
前野塗工房（輪島塗）

二種の酒器はいずれも持ちやすく、手に馴染む造形である。一つは朱漆と黒漆のぼかし塗りで、高台のある方は黒漆で磨かれ、形態だけでも美しい。内側に描かれた蟹とふぐの表情には遊び心が豊かに表現されており、お酒を入れた時に生きているように立体的に浮き上がってくる様は見事である。

§ 審 查 関 係 §

1. 開催日時 令和7年9月11日(木) 15:05~19:25

2. 会場 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 大会議室
〒107-0052 東京都港区赤坂 8-1-22

3. 出品組合
(11組合) 津軽塗(青森県) 川連漆器(秋田県)
会津塗(福島県) 江戸漆器(東京都)
高岡漆器(富山県) 輪島塗(石川県)
山中漆器(石川県) 金沢漆器(石川県)
越前漆器(福井県) 木曾漆器(長野県)
香川漆器(香川県)

4. 審査員

審査員長	東京藝術大学 名誉教授 三田村 有純	
部門	産業工芸品	美術工芸品
審査部門長	東京藝術大学 デザイン科 教授 鈴木 太郎	東京藝術大学 工芸科 教授 青木 宏懂
審査員	経済産業省 製造産業局 生活製品課 企画官 伊藤 裕美	林野庁 林政部 経営課 特用林産対策室長 竹内 学
	江上料理学院 主幹 江上 種英	多摩美術大学 リベラルアーツセンター 教授 外館 和子
	(株)世界文化ホールディングス 執行役員 千葉 由希子	(株)世界文化ホールディングス 執行役員 今井 朗子
	(公財)日本デザイン振興会 常務理事 村上 樹人	(一社)伝統的工芸品産業振興協会 専務理事 佐藤 卓
	(特非)食空間コーディネーター協会 副理事長 荒井 よう子	東京藝術大学社会連携センター 特任准教授 今井 美幸
	(一財)伝統的工芸品産業振興協会 常務理事 朝川 和彦	東京都漆器商工業協同組合 理事長 西山 喜一郎
	日本漆器協同組合連合会 理事長 土田 直	(一社)日本漆工協会 理事長 赤堀 郁彦

(敬称略・順不同)

5. 審査方法と賞の決定手順

各産地の予備審査を経て出品された「産業工芸品部門 49 作品」、「美術工芸品部門 39」、「特別テーマ部門 (SAKE と漆) 15 作品」を対象として、審査員は各部門の評価ポイントなどを勘案し、以下の手順で審査を実施した。

審査部門	出品内容	出品条件	審査員	主な評価ポイント				
				市場性	提案性	デザイン性	独自性	技術力
				価格設定、消費者ニーズ等	ターゲットの分かり易さ等	機能性、収納性、美しさ等	独創性、ユニークさ等	卓越した技術、伝統的な技法等
産業工芸品	漆器 合成漆器	新作品 量産品	専任	○	○	○	△	△
美術工芸品	漆器	新作品 少量品	専任	△	△	○	○	○
特別テーマ部門	漆器 合成漆器	過去に受賞歴がないもの	両部門の審査員	△	産業	共通	美術	△

(1) 審査方法

- ・審査員は、全国漆器展審査員行動基準（ガイドライン）を遵守して、公正・公平に審査を行った。
- ・審査員は、それぞれの評価ポイントを総合的に勘案して、以下の二段階で候補作品を選出した。

1. 担当部門の10作品（特別テーマ部門は5作品）を選出。
2. 選出した10作品の中からBEST5（特別テーマ部門はBEST1）を選出したうえで投票。
3. 投票を集計したうえで、各部門、以下の手順で個人賞を決定。

(2) 個人賞の決定手順

産業・美術工芸品部門の賞と分類

産業工芸品部門	分類	美術工芸品部門
経済産業大臣賞 経済産業省製造産業局長賞	官公庁	農林水産大臣賞 林野庁長官賞
日本経済新聞社賞 家庭画報賞	メディア・公共機関	(株)商工組合中央金庫社長賞 家庭画報賞
(公財)日本デザイン振興会賞 (一財)生活用品振興センター理事長賞 (特非)食空間コーディネーター協会賞 日本漆器協同組合連合会理事長賞	業界団体	(一財)伝統的工芸品産業振興協会賞 (一社)日本百貨店協会会長賞 全国漆業連合会会長賞 (一社)日本漆工協会理事長賞
審査員特別賞 奨励賞	審査会	審査員特別賞 奨励賞

【産業工芸品部門】

- ・集計結果をもとに 25 点以上を獲得した上位 19 作品を最終候補とし、審議のうえ、交付団体の特徴や作品カテゴリとの適合性にも配慮して、下表の上から順に各賞を決定した。
- ・重複入賞については規約に基づき「1 人 1 賞」とし、得点上位の作品を選出。企業名での出品は、生産者が異なることが確認できた場合に限り、職人名に変更して入賞を認めた。
- ・以上の経過を経て、奨励賞 3 点を含む計 12 作品を入賞作品として決定した。

産業工芸品部門(最終候補 19 作品)

賞名	品名	出品者	産地
経済産業大臣賞	花の椀	(株)土直漆器	越前
経済産業省製造産業局長賞	碧螺鈿 7 寸変形皿	小林 広幸	木曾
日本経済新聞社賞	弁当箱 布付き 朱	氏家漆器(株)	高岡
家庭画報賞	一閑張 八角 5 個組小鉢真塗り 黒・赤	宮原 正岳	木曾
(公財)日本デザイン振興会賞	箸置 梅 5 個組	大関 功	川連
(一財)生活用品振興センター理事長賞	面取漆器「十」「十三」溜	岩上 平蔵	越前
(特非)食空間コーディネート協会賞	ボール&ソーサー さつき 黒スリ・赤スリ・スリ	(株)龍門堂	木曾
日本漆器協同組合連合会理事長賞	三段オードブル重 響樹	(有)中出漆器店	山中
審査員特別賞	後藤象谷塗 フリーカップペア	(株)黒松	香川
奨励賞	丸 盛皿(黒マット・赤黒塗分)	(株)柴田漆器店	高岡
奨励賞	盛器 四角ランダム彫 長角・角	上原 千紘	高岡
奨励賞	四季重 長広形 末	松本石太郎工房	輪島
—	枳摺漆 八角酒器・S	大関 功	川連
—	漆宵傘(shituyoikasa)	(株)土直漆器	越前
—	津軽塗 ブラックウォッチペアプレート	(有)イシオカ工芸	津軽
—	螺鈿タイピン 蒔絵・螺鈿	武蔵川 裕実	高岡
—	丸盆 7 寸紬塗 (橙色 藍 緑)	氏家漆器(株)	高岡
—	二段弁当箱中板(取り皿)布付き 黒	氏家漆器(株)	高岡
—	輪島塗えんぴつ	大藤漆器店	輪島

【美術工芸品部門】

- ・集計結果をもとに 25 点以上を獲得した上位 19 作品を最終候補とし、審議のうえ、交付団体の特徴や作品カテゴリとの適合性にも配慮して、下表の上から順に各賞を決定した。
- ・審査に参加している交付団体については、審査員の意向を尊重した。
- ・以上の経過を経て、得点上位 12 作品に対して奨励賞までの各賞を決定した。

美術工芸品部門(最終候補 19 作品)

賞名	品名	出品者	産地
農林水産大臣賞	大理の夢	高橋 貞一	川連
林野庁長官賞	大盃 菊詰沈金	千舟堂	輪島
(株)商工組合中央金庫社長賞	塗分け三段重箱	小坂 進	木曽
家庭画報賞	34.0 盛器 鯉	酒井漆器店	東京
(一財)伝統的工芸品産業振興協会賞	小箱 末広形 洗朱呂色 牡丹に蝶沈金	輪島屋善仁	輪島
(一社)日本百貨店協会会長賞	雪月花蒔絵雪吹	(株)うるしアートはりや	山中
全国漆業連合会会長賞	三段重(分銅形) 源氏香(松風・初音)蒔絵	加藤漆器店	輪島
(一社)日本漆工協会理事長賞	「矢羽」紋盛木 赤・黒	須藤 賢一	津軽
審査員特別賞	半月膳(夜空いっぱい)	山本 勝	越前
奨励賞	ホリデイズ・ディッシュ オリーブとクローバー	(株)川口屋漆器店	香川
奨励賞	薄平椀 “不二の彩り”	橋本 一弘	越前
奨励賞	花活 キンマ、存清 オリーブ	文新堂漆器工業(有)	香川
—	盃 台付 鳳凰蒔絵	前野塗工房	輪島
—	夏飾ノ天	吉井 秀文	会津
—	ボンボン入れ 菊 高蒔絵	梶原漆器店	輪島
—	玉虫張六角香炉 日本の四季蒔絵	角知漆器店	輪島
—	栓 8.0 青海盆 白檀 鳥獣戯画 立付	守田漆器(株)	山中
—	6 寸隅切三段重溜内朱	大音師健晴	越前
—	時を結ぶ鈴の調べ	笹島 隆史	越前

【特別テーマ部門】

- ・審査員 17 名に随行者 3 名を加えた計 20 名が投票に参加し、集計結果をもとに 95 点以上を獲得した上位 6 作品を最終候補として審議を行った。
- ・その結果、得点上位 3 作品を各賞として確定した。

特別テーマ部門(最終候補 6 作品)

賞名	品名	出品者	産地
日本漆器協同組合連合会理事長賞	銀河酒器セット	(株)能作	金沢
日本漆器協同組合連合会理事長賞	陶漆 酒器セット 溜漆塗・朱漆塗	(株)土直漆器	越前
日本漆器協同組合連合会理事長賞	ぐいのみ 蟹とふぐ蒔絵	前野塗工房	輪島
—	白檀片口	竹内 桜咲子	木曽

賞名	品名	出品者	産地
-	結々-YUIYU- 蓄 ベリー/ライラック/セ サミ/ミモザ/オリーブ/ヒアシンス	(株)アプラス	山中
-	組子高坏 ほろ酔い 赤・黒(各色)	(有)中出漆器店	山中

(3) 団体賞の決定手順

作品が個々に獲得した得点を組合ごとに集計した合計に、すべての受賞加点を加算した総得点の上位より各賞を決定した。なお、10 作品を超える出品のある組合については、得点上位 10 作品までを集計の対象とした。

団体賞(3 賞)

第 1 位[桂宮賞]	第 2 位[内閣総理大臣賞]	第 3 位[日本経済新聞社賞]
輪島漆器商工業協同組合	越前漆器協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合

組合別得点集計表(上位 5 組合)

産地組合名	産業工芸品部門				美術工芸品部門				ト 合 計	受 賞 加 点	総 得 点
	出 品 数	選 定 口	BESTP	小 計	出 品 数	選 定 口	BESTP	小 計			
輪島漆器商工業協同組合	5	60	20	80	6	200	50	250	330	95	425
越前漆器協同組合	10	120	35	155	14	140	25	165	320	95	415
伝統工芸高岡漆器協同組合	12	180	35	215	7	60	0	60	275	40	315
木曾漆器工業協同組合	4	100	40	140	1	40	20	60	200	110	310
秋田県漆器工業協同組合	7	110	25	135	1	70	20	90	225	60	285



§ 参 考 資 料 §
(歴代受賞一覧)

個人賞大賞 歴代受賞一覧

-経済産業大臣賞(34回までは通商産業大臣賞)-

年度(回)	品名	生産者	産地組合
昭和42年度(1回)	机三点セット	須藤 八十八	青森県漆器連合会
昭和43年度(2回)	キンマ線模様棚	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
昭和44年度(3回)	六角重箱	山本 英明	越前漆器協同組合
昭和45年度(4回)	杉盆	佐藤喜久治	秋田県漆器工業協同組合
昭和46年度(5回)	飾棚キンマ	香川漆器組合	香川県漆器工業協同組合
昭和47年度(6回)	角丸盛器	向 栄蔵	神奈川県漆器連合会
昭和48年度(7回)	40cm 鏝型研出絵会席膳	(株)丸産	富山県漆器商工業協同組合
昭和49年度(8回)	手提重	須藤 哲朗	青森県漆器協同組合連合会
昭和50年度(9回)	木曾檜割子弁当セット角	城取 邦雄	長野県木曾漆器工業協同組合
昭和51年度(10回)	文机セット	神田 尚彦	青森県漆器協同組合連合会
昭和52年度(11回)	飾棚 妙高ケヤキ	香川漆器組合	香川県漆器工業協同組合
昭和53年度(12回)	八角三段重取皿長型盆	駒井留次郎	富山県漆器商工業協同組合
昭和54年度(13回)	ドレッサ	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
昭和55年度(14回)	炬燵盆	加藤 芳郎	富山県漆器商工業協同組合
昭和56年度(15回)	胴張盆付茶椀	関 盛夫	会津漆器協同組合連合会
昭和57年度(16回)	乾漆輪花盆	助田 敏一	越前漆器協同組合
昭和58年度(17回)	八角茶櫃線入セット	駒井 一夫	伝統工芸高岡漆器協同組合
昭和59年度(18回)	飾棚	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
昭和60年度(19回)	デスクウェアー波模様彫りセット	般若 剛	伝統工芸高岡漆器協同組合
昭和61年度(20回)	菓子鉢 7寸変り筋	三木再城商店	山中漆器連合協同組合
昭和62年度(21回)	妹乾漆座卓蓋線入	(有)かく丸漆器問屋	木曾漆器工業協同組合
昭和63年度(22回)	金箔卓	中沢 義孝	東京都漆器商工業協同組合
平成元年度(23回)	座敷机銀河	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成2年度(24回)	妹・溜おもてなしセット	金川 明	会津漆器協同組合連合会
平成3年度(25回)	チェスト	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成4年度(26回)	金環触の宴	松田 真扶	越前漆器協同組合
平成5年度(27回)	チェスト彩香 20サイズ ウルミ漆塗 彩色塗分け	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成6年度(28回)	キャビネット 紫舟 30	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成7年度(29回)	線彫 白檀塗 大鉢	亀田 泉	山中漆器連合協同組合
平成8年度(30回)	飾棚(清楽)	(株)モリシゲ	香川県漆器工業協同組合
平成9年度(31回)	サイドボード”春光”	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成10年度(32回)	チェスト グレー塗分線キンマ	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成11年度(33回)	お好み重	佐藤伊右衛門商店	秋田県漆器工業協同組合

年度(回)	品名	生産者	産地組合
平成12年度(34回)	KASANE パーティートレイ ミレニウム	手塚 英明	木曾漆器工業協同組合
平成13年度(35回)	ローテーブル 紬 (B)	天野漆器(株)	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成14年度(36回)	吹上 会席膳 紬 五彩	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成15年度(37回)	盛器銘々皿セット 6点1組	市中漆器工房	輪島漆器商工業協同組合
平成15年度(38回)	座テーブル「月光」ダークグリーン漆塗乾漆塗	森 康一	香川県漆器工業協同組合
平成16年度(39回)	パーティー重 2段	大橋呂色店	輪島漆器商工業協同組合
平成17年度(40回)	三つ足盛器	清水 正義	越前漆器協同組合
平成18年度(41回)	八角形 二段重 平台付	加藤漆器店	輪島漆器商工業協同組合
平成19年度(42回)	小箱波シリーズ(櫛目研出し)	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成20年度(43回)	銀彩 酒器セット	摂津 広紀	秋田県漆器工業協同組合
平成21年度(44回)	飾り棚「紫苑 20」彩色塗分 春の詩の図	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成22年度(45回)	テーブル「麗風」	森 康一	香川県漆器工業協同組合
平成23年度(46回)	KOTON black V, (Y), (U)	我戸 正幸	山中漆器連合協同組合
平成24年度(47回)	テーブル折脚 風紋	森 康一	香川県漆器工業協同組合
平成25年度(48回)	二段重箱	白川 勝義	青森県漆器協同組合連合会
平成26年度(49回)	飾皿(皿立付) 十二支 螺鈿・蒔絵	天野漆器(株)	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成27年度(50回)	カップ・コースター付 外木地呂内側銀地	山田 秀樹	越前漆器協同組合
平成28年度(51回)	会席膳 五彩	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成29年度(52回)	引き出し(大・小)と小箱	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成30年度(53回)	重箱(取り皿付)	秋元 勝彦	青森県漆器協同組合連合会
令和元年度(54回)	JUBACO	山口 怜示	越前漆器協同組合
令和2年度(55回)	八角盆(彩)3点セット	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
令和3年度(56回)	カフェボウル カラータイプ	(有)イシオカ工芸	青森県漆器協同組合連合会
令和4年度(57回)	櫛 六ツ組 信玄弁当 独楽	(有)中出漆器店	山中漆器連合協同組合
令和5年度(58回)	香川漆器 漆下駄「Siccok」	一和堂工芸(株)	香川県漆器工業協同組合
令和6年度(59回)	カッシーニ 黒	攝津 広紀	秋田県漆器工業協同組合
令和7年度(60回)	花の椀	(株)土直漆器	越前漆器協同組合

-農林水産大臣賞(12回から交付)-

年度(回)	品名	生産者	産地組合
昭和42年度(1回)	—	—	—
昭和43年度(2回)	—	—	—
昭和44年度(3回)	—	—	—
昭和45年度(4回)	—	—	—
昭和46年度(5回)	—	—	—
昭和47年度(6回)	—	—	—
昭和48年度(7回)	—	—	—
昭和49年度(8回)	—	—	—
昭和50年度(9回)	—	—	—
昭和51年度(10回)	—	—	—
昭和52年度(11回)	—	—	—
昭和53年度(12回)	茶椀	若島 孝雄	輪島漆器商工業協同組合
昭和54年度(13回)	開重	白木屋漆器店	会津漆器協同組合連合会
昭和55年度(14回)	卓上膳セット	(株)白木屋漆器店	会津漆器協同組合連合会
昭和56年度(15回)	盛器セット	柴田 利男	青森県漆器協同組合連合会
昭和57年度(16回)	角盆彩キンマ	文新堂漆器工業(株)	香川県漆器工業協同組合
昭和58年度(17回)	丸卓七々子	須々田清彦	青森県漆器協同組合連合会
昭和59年度(18回)	楕円座卓	斉藤 満	青森県漆器協同組合連合会
昭和60年度(19回)	フロアースタンド	(株)森嘉吉商店	香川県漆器工業協同組合
昭和61年度(20回)	末広丸型卓上膳	斉藤 満	青森県漆器協同組合連合会
昭和62年度(21回)	溜八角オードブルセット	若木会 照井克彦	会津漆器協同組合連合会
昭和63年度(22回)	丸箱膳	有馬 功	青森県漆器協同組合連合会
平成元年度(23回)	引出箆筒紋紗塗	(株)田中屋	青森県漆器協同組合連合会
平成2年度(24回)	御膳七々子塗	白川 明美	青森県漆器協同組合連合会
平成3年度(25回)	大盛鉢	佐竹 康宏	山中漆器連合協同組合
平成4年度(26回)	チェスト扉(抽出)本体黒ハケ目 色漆塗分ケ銀平月蒔	(株)モリシゲ	香川県漆器工業協同組合
平成5年度(27回)	櫛 千筋 薄挽深鉢	(株)正和	山中漆器連合協同組合
平成6年度(28回)	宴膳柄拭漆	佐竹 康宏	山中漆器連合協同組合
平成7年度(29回)	朱溜塗 組皿 櫛	宮本 優	山中漆器連合協同組合
平成8年度(30回)	盛器	清水 正義	越前漆器協同組合
平成9年度(31回)	水鏡 会席膳	松田 真扶	越前漆器協同組合
平成10年度(32回)	ハイカラ(新色)なプレート	宮腰 清次郎	青森県漆器協同組合連合会
平成11年度(33回)	座卓(銀河)	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成12年度(34回)	あけぼの塗 三つ引出 左右対	大谷哲夫木工所	紀州漆器協同組合

年度(回)	品名	生産者	産地組合
平成13年度(35回)	呂色研出 紅溜 内変塗 7寸皿 10枚揃	後藤 常夫	鳴子漆器協同組合
平成14年度(36回)	楽楽 椀セット	松田 真扶	越前漆器協同組合
平成15年度(37回)	呂色研出 和菓子皿7寸(5枚1組)	後藤 常夫	鳴子漆器協同組合
平成15年度(38回)	栓黒 薄挽組鉢	(株)酢谷	山中漆器連合協同組合
平成16年度(39回)	呂色研 八角皿(3枚組)	後藤 常夫	鳴子漆器協同組合
平成17年度(40回)	波紋大皿A・B	遠田漆器店	秋田県漆器工業協同組合
平成18年度(41回)	キャビネット西都28 黒刷毛目漆塗扉朱刷毛目	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成19年度(42回)	乾漆盛器	内島 正雄	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成20年度(43回)	十二角 三段重	吉田漆器工房	輪島漆器商工業協同組合
平成21年度(44回)	乾漆輪花 盛器	内島 正雄	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成22年度(45回)	菊型オードブルセット	滝 健一	秋田県漆器工業協同組合
平成23年度(46回)	松フチ麻布張り丸テーブル	小橋 敬一	越前漆器協同組合
平成24年度(47回)	帯付小判重	津田 哲司	輪島漆器商工業協同組合
平成25年度(48回)	栗朱塗平卓	小橋 敬一	越前漆器協同組合
平成26年度(49回)	乾漆盛器“越の海”	前田 利栄	越前漆器協同組合
平成27年度(50回)	大盃 奇跡草蒔絵	山崎 夢舟	山中漆器連合協同組合
平成28年度(51回)	乾漆皿「華麗」	山崎 夢舟	山中漆器連合協同組合
平成29年度(52回)	花塗金彩盤	寿次郎	秋田県漆器工業協同組合
平成30年度(53回)	オードブル容器	岡山至鳳堂	輪島漆器商工業協同組合
令和元年度(54回)	盛皿グリーン(魚)	渡辺漆器店	香川県漆器工業協同組合
令和2年度(55回)	青海光 菓子鉢	采色塗 なか門	輪島漆器商工業協同組合
令和3年度(56回)	大皿(クローバー)	渡辺漆器店	香川県漆器工業協同組合
令和4年度(57回)	「LINE」菓子器(赤・黒)	須藤 賢一	青森県漆器協同組合連合会
令和5年度(58回)	漆皮 朱塗縁金線櫛紋様皿 朱塗縁金線梅型小皿5枚組	木曾漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合
令和6年度(59回)	千家盆「源氏物語」	橋本 一弘	越前漆器協同組合
令和7年度(60回)	大理の夢	高橋 貞一	秋田県漆器工業協同組合

歴代受賞一覧(団体賞)

回	年	桂宮賞	内閣総理大臣賞	日本経済新聞社賞	三越賞	特別奨励賞
1	1967	会津漆器協同組合連合会	青森県漆器協同組合連合会	東京都漆器商工業協同組合		
2	1968	東京都漆器商工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合		
3	1969	東京都漆器商工業協同組合	越前漆器協同組合	秋田県漆器工業協同組合		
4	1970	青森県漆器協同組合連合会	秋田県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合		
5	1971	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会		
6	1972	木曾漆器工業協同組合	神奈川県漆器連合会	富山県漆器商工業協同組合		
7	1973	富山県漆器商工業協同組合	富山県漆器商工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会		
8	1974	石川県漆器連合会	青森県漆器協同組合連合会	東京都漆器商工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合	
9	1975	長野県木曾漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	秋田県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	
10	1976	青森県漆器協同組合連合会	東京都漆器商工業協同組合	木曾漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合	
11	1977	木曾漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	会津漆器協同組合連合会	富山県漆器商工業協同組合 会津漆器協同組合連合会 越前漆器協同組合
12	1978	青森県漆器協同組合連合会	会津漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合 富山県漆器商工業協同組合 越前漆器協同組合
13	1979	富山県漆器商工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	青森県漆器協同組合連合会	京都漆器工芸協同組合	木曾漆器工業協同組合 香川県漆器工業協同組合 山中漆器連合協同組合
14	1980	青森県漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合	富山県漆器商工業協同組合		会津漆器協同組合連合会 木曾漆器工業協同組合 越前漆器協同組合
15	1981	青森県漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合	秋田県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	伝統工芸高岡漆器協同組合 越前漆器協同組合 山中漆器連合協同組合
16	1982	越前漆器協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	輪島漆器商工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会 香川県漆器工業協同組合 山中漆器連合協同組合
17	1983	青森県漆器協同組合連合会	伝統工芸高岡漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	秋田県漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合 山中漆器連合協同組合 越前漆器協同組合
18	1984	木曾漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	会津漆器協同組合連合会	伝統工芸高岡漆器協同組合	越前漆器協同組合 輪島漆器商工業協同組合 香川県漆器工業協同組合
19	1985	伝統工芸高岡漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	会津漆器協同組合連合会 青森県漆器協同組合連合会 木曾漆器工業協同組合
20	1986	伝統工芸高岡漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合	会津漆器協同組合連合会 越前漆器協同組合 東京都漆器商工業協同組合
21	1987	会津漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	秋田県漆器工業協同組合 越前漆器協同組合 山中漆器連合協同組合
22	1988	会津漆器協同組合連合会	青森県漆器協同組合連合会	東京都漆器商工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	秋田県漆器工業協同組合
23	1989	秋田県漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	香川県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	越前漆器協同組合
24	1990	越前漆器協同組合	青森県漆器協同組合連合会	香川県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合
25	1991	青森県漆器協同組合連合会	越前漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合	秋田県漆器工業協同組合
26	1992	青森県漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合
27	1993	山中漆器連合協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	秋田県漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合
28	1994	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合
29	1995	山中漆器連合協同組合	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合		秋田県漆器工業協同組合
30	1996	越前漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	香川県漆器工業協同組合		青森県漆器協同組合連合会 越前漆器協同組合
31	1997	伝統工芸高岡漆器協同組合	木曾漆器工業協同組合	山中漆器連合協同組合		
32	1998	輪島漆器商工業協同組合	秋田県漆器工業協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合		
33	1999	香川県漆器工業協同組合	山中漆器連合協同組合	青森県漆器協同組合連合会		
34	2000	越前漆器協同組合	秋田県漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合		
35	2001	伝統工芸高岡漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	香川県漆器工業協同組合		
36	2002	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合		
37	2003	会津漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	越前漆器協同組合	本歴代受賞一覧は「全国漆器展」に名称が変更になってからの一 覧であり、それ以前の情報については事務局では管理していない	
38	2003	伝統工芸高岡漆器協同組合	越前漆器協同組合	木曾漆器工業協同組合		
39	2004	輪島漆器商工業協同組合	越前漆器協同組合	鳴子漆器協同組合	2003年は2月開催から秋(9,10月)開催への代替のため、同年度に2 度の開催	
40	2005	越前漆器協同組合	秋田県漆器工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合		
41	2006	輪島漆器商工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合		
42	2007	伝統工芸高岡漆器協同組合	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合		
43	2008	輪島漆器商工業協同組合	越前漆器協同組合	秋田県漆器工業協同組合	※桂宮賞の名称については以下の通り	
44	2009	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	・第21回までは高松宮賞	
45	2010	秋田県漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	・第22回は三笠宮賞	
46	2011	越前漆器協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	山中漆器連合協同組合		
47	2012	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合	※第1～2回の高松宮賞・内閣総理大臣賞・日本経済新聞賞の名称 については以下の通り	
48	2013	越前漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	・高松宮杯	
49	2014	—	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	・内閣総理大臣杯	
50	2015	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	輪島漆器商工業協同組合	・日本経済新聞社盾	
51	2016	山中漆器連合協同組合	香川県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合		
52	2017	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	山中漆器連合協同組合		
53	2018	越前漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	木曾漆器工業協同組合	2014年度(第49回展)の桂宮賞の交付について	
54	2019	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合	2014年6月8日に桂宮宣仁親王殿下が薨去されたため、当該年度の 交付申請を見送る	
55	2020	輪島漆器商工業協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	越前漆器協同組合		
56	2021	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合		
57	2022	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	香川県漆器工業協同組合		
58	2023	越前漆器協同組合	青森県漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合		
59	2024	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合		
60	2025	輪島漆器商工業協同組合	越前漆器協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合		

第 60 回全国漆器展 審査講評

令和 7 年 9 月 18 日制作

令和 7 年 10 月 1 日改訂

制 作 日本漆器協同組合連合会 事務局

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二丁目 15 番 2 号 松島ビル 4F

一般財団法人生活用品振興センター内

TEL 03-3639-8882 FAX 03-3639-8880 E-mail info@shikki.or.jp

URL <https://www.shikki.or.jp/>

本資料を引用・転載する場合は、制作宛にご一報ください。

なお、日本漆器協同組合連合会会員においてはこの限りではありません。